

殖民地に於ける市場及び生産資源の獨占にある。就中支那に於ける商品及び投資市場の獨占、生産資源の獲得が日本資本主義の生命である。

四、上述の二つの事情は資本家階級と政治権力との結合を促進し、国内的には資本家階級の無産階級に対する搾取と専横を益々増大せしめ、且つその形式は初期の資本家階級によつてなされる如き最も露骨なる對立形式の域を脱しない。資本家階級が階級闘争を粉砕せんとし、諸する社会政策乃至は共済施設の如きより尚日本資本家階級によつて拒否せられて居る。

五、更にまた日本資本主義をしてこの帝國主義的発展を完備せしめ、日本帝國主義を東洋に於ける日本の地利的優越性と豐饒なる軍備によつて維持せられて居る。國內無産階級の犠牲を加へ、國際的には、殖民地の動搖、支那及び印度の革命運動の發展、英米帝國主義との對立の激化等によつて不斷に帝國主義戰爭の危機に當面して居る。

かくて日本資本主義は歐洲大戰によつて一時的繁榮を見、一躍世界資本主義の列位に加はつた。戰後世界資本主義の生産力の恢復世界市場への再進出に會ふ。一大混亂と動搖を推し起したが、實し日本ブルジョアジーは漸く挽回する體裁的反動の潮流に乗り、無産階級運動及び殖民地民族運動を抑壓し、幾多の金融恐慌を通じて資本金融資本の支配を確立した。日本ブルジョアジーはかくして再び得たる一時的安定を本質化する間に、田中内閣の官費なる反動政策に代ふる浪井内閣の欺瞞的社会政策を以てし、産業合理化と金融緩和の執行によつて、直接間接金融資本に奉仕せんとしつゝ、ある金融資本の支配の確立が、特に世界資本主義の相対的安定期に於て開始せられた。この前形に於て、戰後第二期の發展に於ける諸矛盾に激化に當面した。即ち、即ち日本資本主義の矛盾を特徴づけて居る。即ち、

二、戰後第三期と日本資本主義

一、國際的には支那革命のプロレタリア化、印度民族運動の展開、アメリカ恐慌の影響等によつて日本資本主義の生命とする海外市場は益々其體を害す生産制限に極度に調整せられて居る。日本ブルジョアジーは自己の利害關係を固及び殖民地無産階級の極度に犠牲にせらるゝも、未曾有の失業、労働賃金の實質的低下に於て居る。二、国内では、日本銀行調査によつて、十五年來を基準として、労働人口に於て八七・八、また総賃金に於て九八・四と減少して居る。ブルジョア統制も今やこの事實を敢て認めざるを得ない。我々の日常生活の経験に於ては、いかに深刻である。

三、金融資本支配の確立として、從來の國內資本の整理統制を促進せられ、小企業の没落と共に伴ふ小ブルジョアの零落と労働失業の増大も此期の特徴である。四、農民の窮乏と共に伴ふ封建的剝削の基礎、農中家制度の崩壊は、地に墾せられず、貧農の貧窮化と都市プロレタリアートの提擡の基礎は益々増大する。五、産業の合理化と労働の強度化は世界資本主義の柱に對して開始せられるが、最も極めて急進的進歩に於けるので、その結果は上述の失業と労働條件の低下を加進的に増大せしめる。四、かくてこの期に於ける日本ブルジョアジーの攻勢は自ら從來の軍統的美風たる家族主義乃至は温情主義の名による、労働協調主義の戦面を放棄し、労働大業をして必然的に闘争へと憤起せしめる。かくて労働の攻勢は日本に於ても此の期的特徴をなすのである。

五、金融資本の支配に於ける労働の攻勢は、小ブルジョアの無産階級的政治闘争への参加と相俟つて、政治的闘争への結合並に政治的トライアムナルの促進の傾向を持つて居る。特に久しき官僚の支配下に於て労働者の政治的自由を極度に制限せられ、更に其後第一期に入つては、政治的自由を生長基礎が著しく削取せられつゝ、今日我が労働階級は此の新しい労働の攻勢に乗じて政治的自由を戦ひ取らんとする。六、支那革命運動のプロレタリア化、東洋市場を中心とする資本日本の帝國主義對立の尖鋭化等、等は一步一歩世界戰爭の危機を深めつゝある。

斯の諸矛盾は今や日本資本主義の到る所にその端の表現をなして居る。浪井内閣の一枚看板たる金融政策と之を金融資本に奉仕する浪井内閣が、一時的安定を承諾せんとする。試みの代表的なるものだが、その斷行後間もなく、アメリカ恐慌の物波と共に伴ふ世界の恐慌の新たな波に乗上げて破綻の狀態に陥れるが如きは、その代表的なるものである。この難波を避源として、中小企業の倒壊と支那對立は相次ぎ、失業と労働不安は白熱化し、労働協調は未曾有的増加と深刻化を示して居る。

四、日本労働組合運動の情勢 (其二)

——日本労働組合運動の重要性について——

一、日本労働組合運動の隆替

第一、我が國の労働組合運動の情勢を見るに、日本資本主義の相対的安定期の隆替を最も顕明に反映して居る。

我が國の労働組合運動は、十年間に於ける最初の隆替を見、其時明治二十二年に於て、後歐大戰に於ける隆替を見、其時明治二十二年に於て、我が國の労働組合運動の隆替は、益々その如き高潮に於くものである。之等は、今日我が國の労働組合運動の隆替に於て、最も顕明に反映して居る。

一、初期の資本主義的隆替と労働組合の隆替との關係は、極度に暴露された。即ち、資本家階級は自由なる搾取を妨ぐる如き、一切の労働者の組織を反行した。二、政治的には、社会政策其他の共済施設に資本家、自由なる搾取の障礙となすものとして拒否せられた。三、國際的には、諸外國の如く、我が國の労働組合の隆替を促進する機會が少かつた。

四、加之、更に更に上げられたる我國資本主義内部には、我國特有の封建的遺制たる家族制度は深く根を張り、この制度に依存する團體と扶助關係は労働者の階級的成長と自覺を阻止した。即ち、資本家階級はこの遺制を利用して、之によつて温情主義、家族主義、労働協調主義に於ける労働者の幻想を喚びだした。

五、労働者の大部分は農村より移動し來る者、重工業が未發達工業に、農産と搾取を主眼とする。之に相俟つて、労働者の労働年限比較的少く、(特に若い)は我國に於て産業たる新産業に従事する女子のそれである。幼少労働平均年齢は、其時既に於て、尚二年半を出でない。此の如き團體と訓練の要素を欠いた。

かくて我が國に於ける労働組合運動はその特殊の環境の中に於て、久しに生長の機を得なかつた。歐洲大陸に於ける日本資本主義の躍進を契機として、茲に始めてその基礎を見出した。即ち、歐洲大陸中に於ける日本資本主義の生産力の増大と市場の擴大は、巨大なる労働階級を生じ、労働に対する需要の急激なる増大と資本主義の、一時的上昇傾向に伴ふ労働の攻勢は、一般社會主義運動に労働組合運動を確立するに至つた。

二、邦國労働組合の特殊性

我等はこの歐洲大陸を契機とする我國労働組合運動の發展の過程に於て、二つの特徴を認める。即ち、一は労働組合の成立の遅延の發生であり、他は我が國労働組合の社會主義運動との間に存続し來つた不可分の關係である。

我が國労働組合の成立の遅延は、發生する労働者の組織は職場又は工場別に、或は有力者又は地域團體を中心として、極めて分散的狀態を以て出現した。我々組合運動とこれであつた。然るに歐洲大陸の經驗と共に、我が國に於ける労働組合の發展は、かゝる發生期の労働組合を、その分散狀態のまま、個別的に資本の攻勢に對抗せしめた。その結果は發展の初期に於ける組合を、個別的に、且つ其の地に於て固定化せしめた。個別的組合は地域の乃至は職業別による、或は小なる範圍に於てのみ、その範圍に於て僅かに職的職分を小じしめると具備する程度の組織に止まつた。此の分散狀態は、工場主義は小範圍の定案を以て闘争に着手する。初期の闘争は、常に比較的矛盾を解かず、從つてそのまゝ、安定する傾向を生じた。

次に社會主義運動と組合運動との關係。我が國組合運動は久しくサンチカリスムを指導的イデオロギで、労働組合は日常利害の一致と同時に思想的政治的見解の一致をその存在條件とした。この傾向は、大抵でロシア革命の影響を受けても留脱せず。當時の社會主義運動も亦労働組合を以てその思想的代表機關と見なす傾向強く、労働組合即労働者政黨なるものがあった。かく、労働者は労働組合運動に、一般社會運動に於ける最重要性なる地位を認めようとする。同時に、労働組合は政治的意見の一致を要する結果に必然に日常利害の一致による大衆的組織への發展を阻止し、且つ分散狀態を水